

6. 学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準

【学校教育法施行規則 172 条の 2 第 1 項第 6 号関係】

<成績の評価>

学 則

第 11 条 授業科目を履修し、その試験に合格した者には、所定の単位を与える。

- 2 前項の試験の評価は、秀・優・良・可・不可をもって表わし、可以上を合格とする。
- 3 病気その他止むを得ない事故のために試験を受けることのできなかつた者には、追試験を行うことができる。
- 4 前 2 項の試験を受けるには、その学年のはじめに届け出た科目について授業時間の 3 分の 2 以上を出席していなければならない。

成績評価に関する規定

(1) 成績の評価は、秀・優・良・可・不可と表示し、「可」以上を合格とする。

「不可」は不合格とし、単位は認定されない。

(2) 前項の成績の評価は、定期試験、及びレポートの成績等を総合して、次の基準により行う。

秀(S)	90～100
優(A)	80～90 未満
良(B)	70～80 未満
可(C)	60～70 未満
不可(D)	60 未満

(3) 学習成績の結果は、「成績通知書」により学生に通知する。

成績の評価は、期末試験・論文・レポート・実技・平常の成績等を総合して行い、秀、優、良・可・不可と表示される。

不可の場合は、その科目の単位が不認定となる。

また、期末試験（追試験・再試験を含む）の受験中に不正行為があったと認められた場合は、その学期の全試験科目の成績が評価されない。

＜卒業の認定に当たっての基準＞

学 則

- 第12条 本学を卒業するには、学生は2年以上在学し、第9条および第11条第1項の定めるところにより、科目を履修し、単位を修得しなければならない。
- 2 本学に2年以上在学し、本学則に定める授業科目および単位数を修得した者については、教授会の議を経て、学長が卒業を認定する。
- 3 前項の規定により、卒業した者には、本学学位規程の定めるところにより、短期大学士の学位を授与する。

卒 業 の 要 件

卒業の要件は、2年以上本学に在学し、教養に関する教育科目、専門に関する教育科目の必修科目、選択科目を次の基準により合計62単位以上履修しなければならない。

(1) 食物栄養専攻

ア. 教養に関する教育科目

17単位のうち12単位以上

イ. 専門に関する教育科目

必修科目 16単位

選択科目 34単位以上

(2) 生活福祉専攻

ア. 教養に関する教育科目

18単位のうち12単位以上

イ. 専門に関する教育科目

必修科目 35単位

選択科目 15単位以上

資格取得の要件

- 1 本学では、卒業を基礎資格として、所定の単位を修得すると、次の資格が取得あるいは取得のための受験資格を得ることができる。

栄養士

介護福祉士(受験資格)

また、資格認定試験に合格すると、次の資格を取得できる。

フードスペシャリスト・健康管理士一般指導員・中高老年期運動指導士・介護予防運動スペシャリスト

教養に関する教育科目

食物栄養専攻			生活福祉専攻		
科目名	単位数		科目名	単位数	
	必修	選択		必修	選択
信濃の風土と文化		2	信濃の風土と文化		2
生活と音楽	1		生活と音楽Ⅰ	1	
生活文化論Ⅰ (マナー教育)	1		生活と音楽Ⅱ	1	
生活文化論Ⅱ (マナー教育)	1		生活文化論Ⅰ (マナー教育)	1●	
暮らしと法律		2	生活文化論Ⅱ (マナー教育)	1●	
人間生活論	★	2	暮らしと法律		2●
基礎英語Ⅰ	2●		いのち学	2●	
基礎英語Ⅱ		2	基礎英語		2
情報処理演習Ⅰ	1▽		情報処理演習Ⅰ	1	
情報処理演習Ⅱ	1▽		情報処理演習Ⅱ	1	
スポーツと健康Ⅰ	1●		スポーツと健康Ⅰ	1	
スポーツと健康Ⅱ	1●		スポーツと健康Ⅱ	1	
計	9	8	計	10	6

留意事項

資格取得に必要な単位数を含め、12単位以上修得すること

食物栄養専攻

栄養士 必修9単位を含め12単位以上取得しなければならない

生活福祉専攻

介護福祉士 必修科目10単位を含め12単位以上取得しなければならない

●印 栄養士資格取得者必修科目 介護福祉士資格取得者必修科目

▽印 フードスペシャリストの資格を取得するために、できるだけ履修することが望ましい。

★印 健康管理士一般指導員資格取得者必修科目

専門に関する教育科目

食物栄養専攻

科目名	単位数		科目名	単位数	
	必修	選択		必修	選択
生活科学概論	2		臨床栄養学実習		1●
食生活論	2▽		給食管理		2●
社会福祉概論	2●		給食管理実習Ⅰ		1●
フードスペシャリスト論		2▽	給食管理実習Ⅱ		1●
栄養学総論	2●▽		給食管理実習Ⅲ		1●
栄養学各論		2●	栄養指導論Ⅰ		2●
栄養学実験・実習		1●▽	栄養指導論Ⅱ		2●
栄養学各論実習		1●	栄養指導論実習Ⅰ		1●
食品学総論	2●▽		栄養指導論実習Ⅱ		1●
食品学各論Ⅰ (食品加工学を含む)		2●▽	健康管理概論	★	2
食品学各論Ⅱ		2▽	公衆衛生学	★	2●
食品学実験	1●▽		生化学		2●
調理学	2●▽		生化学実験		1●
フードコーディネータ論		2▽	解剖生理学Ⅰ		2●
調理学実習Ⅰ	1●▽		解剖生理学Ⅱ		2●
調理学実習Ⅱ		1●▽	解剖生理学実習		1●
食品衛生学		2●▽	運動生理学	★	2●
食品衛生学実験		1●▽	食品の消費と流通		2▽
公衆栄養学		2●	環境と健康 (統計学を含む)	★	2▽
臨床栄養学総論	★	2●	総合演習	2	
臨床栄養学各論	★	2●	計	16	52

留意事項

- 1 卒業に必要な単位数は、教養に関する教育科目 12 単位以上と専門に関する教育科目 50 単位以上（必修科目 16 単位を含む）合計 62 単位以上である。
- 2 栄養士の資格を取得するためには、卒業に必要な単位数を基礎資格として、●印で示した栄養士必修科目 50 単位を修得しなければならない。
- 3 フードスペシャリストの資格を取得するには、卒業に必要な単位数を基礎資格として、▽印で示したフードスペシャリスト必修科目 22 単位以上を修得しなければならない。
▽印はできるだけ履修することが望ましい。
- 4 健康管理士一般指導員の資格を取得するには、卒業に必要な単位数を基礎資格として、★印で示した健康管理士一般指導員必修科目 18 単位以上を修得しなければならない。

資格(称号)取得に関する教育科目

栄養士

- ①「食物栄養専攻 専門に関する教育科目」参照
 ②「栄養士養成施設における校外実習要領」に基づいて校外実習を行わなければならない。

フードスペシャリスト

- ①▼記号で示した必修科目 22 単位を修得しなければならない。
 ②日本フードスペシャリスト協会の試験に合格しなければならない。
 ③資格取得費用は、受験料、資格登録料等を含め 7,400 円。

授業科目	必修	選択	授業科目	必修	選択
情報処理演習Ⅰ		1	調 理 学	2	
情報処理演習Ⅱ		1	フードコーディネータ論	2	
食生活論		2	調理学実習Ⅰ	1	
フードスペシャリスト論	2		調理学実習Ⅱ	1	
栄養学総論	2		栄養学実験・実習	1	
食品学総論	2		食品衛生学	2	
食品学各論Ⅰ (食品加工学を含む)	2		食品衛生学実験		1
食品学各論Ⅱ	2		食品の消費と流通	2	
食品学実験	1		環境と健康 (統計学を含む)		1
			計	22	7

健康管理士一般指導員

本学では、食物栄養専攻の学生を対象に、健康管理士一般指導員の資格が取得出来る特別課程を設けている。

本資格は、日本成人病予防協会と財生涯学習開発財団の認定するものであり、健康管理や予防医学の普及・指導を行う能力を備えたことを認定するものである。

協会指定の教科目を履修した後、資格認定試験に合格しなければならない。

資格取得費用は、受験料、資格登録料等を含め 21,500 円。

教養に関する教育科目		専門に関する教育科目	
科目名	単位数	科目名	単位数
人間生活論	2	食生活論	2
		栄養学総論	2
		臨床栄養学総論	2
		臨床栄養学各論	2
		健康管理概論	2
		公衆衛生学	2
		環境と健康	2
		運動生理学	2
計	2	計	16

専門に関する教育科目

生活福祉専攻

科目名	単位数	科目名	単位数
	必修		選択
人間の尊厳と自立	2●	人間関係とコミュニケーション	2●
社会保障制度論Ⅰ	2●	社会保障制度論Ⅱ	2●
介護の基本Ⅰ	2●	社会保障制度論Ⅲ	2●
介護の基本Ⅱ	2●	介護の基本Ⅲ	2●
リハビリテーション論Ⅰ	2●	リハビリテーション論Ⅱ	2●
アクティビティケアⅠ	1●	アクティビティケアⅡ	1●
コミュニケーション技術Ⅰ	1●	コミュニケーション技術Ⅱ	1●
生活支援技術（家事支援）	1●	生活支援技術（介護技術Ⅲ）	1●
生活支援技術（住環境）	1●	生活支援技術（介護技術Ⅳ）	1●
生活支援技術（介護技術Ⅰ）	2●	介護過程Ⅱ	1●
生活支援技術（介護技術Ⅱ）	2●	介護過程Ⅲ	1●
生活支援技術（栄養・調理Ⅰ）	2●	介護過程Ⅳ	1●
生活支援技術（栄養・調理Ⅱ）	1●	介護総合演習Ⅱ	1●
介護過程Ⅰ	1●	介護総合演習Ⅲ	1●
介護総合演習Ⅰ	1●	介護総合演習Ⅳ	1●
介護実習Ⅰ	1●	介護実習Ⅲ	3●
介護実習Ⅱ	2●	介護実習Ⅳ	3●
医療的ケアⅠ	2●	医療的ケアⅡ－Ⅰ	2●
発達と老化の理解Ⅰ	2●	医療的ケアⅢ－Ⅰ	2●
認知症の理解Ⅰ	1●	医療的ケアⅡ－Ⅱ	1●
障害の理解Ⅰ	1●	医療的ケアⅢ－Ⅱ	1●
こころとからだのしくみⅠ	1●	発達と老化の理解Ⅱ	2●
介護研究	2●	認知症の理解Ⅱ	1●
		障害の理解Ⅱ	1●
		こころとからだのしくみⅡ	1●
		こころとからだのしくみⅢ	1●
		こころとからだのしくみⅣ	1●
計	35	計	39

留意事項

生活福祉専攻では、介護福祉士の資格のための専門教育科目の必修単位数は35単位、選択必修科目は39単位、合わせて74単位になっており、それに加えて教養に関する教育科目より資格取得のために必修の教育科目10単位を含めて12単位以上を履修しなければならないので、資格を取得しての卒業最低単位数は86単位となる。

●印 介護福祉士資格取得者必修科目

介護福祉士

- ①「生活福祉専攻 専門に関する教育科目」参照
- ②介護福祉士の資格を取得するには、介護実習を行わなければならない。
「介護実習のてびき」は別に定める。

中高老年期運動指導士

本学では、生活福祉専攻の学生を対象に、中高老年期運動指導士の資格が取得できる特別課程を設けている。

本資格は、公益財団法人日本スポーツクラブ協会の認定するものであり、中高老年者の健康・体力維持のための運動指導を任務とする国家資格に準ずる資格である。

協会が認める教育科目を修了した後、所定の課題レポートの結果に基づき、資格が認定される。

資格取得費用は、4年の指導者維持会員登録料を含め18,700円。

専門に関する教育科目	
科目名	単位数
こころとからだのしくみⅠ	1
コミュニケーション技術Ⅱ	1
アクティビティケアⅠ	1
アクティビティケアⅡ	1
生活支援技術(栄養・調理Ⅰ)	2
生活支援技術(介護技術Ⅰ)	2
発達と老化の理解Ⅰ	2
発達と老化の理解Ⅱ	2
資格取得講座	
計	12

介護予防運動スペシャリスト

本学では、生活福祉専攻の学生を対象に、介護予防運動スペシャリストの資格が取得できる特別課程を設けている。

本資格は、公益財団法人日本スポーツクラブ協会の認定するものであり、要介護者・高齢者・障害者等に対する介護予防の運動の指導を任務とする国家資格に準ずる資格である。

協会が認める教育科目を修了した後、所定の課題レポートの結果に基づき、資格が認定される。

資格取得費用は、4年の指導者維持会員登録料を含め18,700円。

専門に関する教育科目	
科目名	単位数
介護の基本Ⅱ	2
こころとからだのしくみⅠ	1
こころとからだのしくみⅡ	1
リハビリテーション論Ⅰ	2
リハビリテーション論Ⅱ	2
コミュニケーション技術Ⅱ	1
アクティビティケアⅠ	1
アクティビティケアⅡ	1
生活支援技術(介護技術Ⅰ)	2
発達と老化の理解Ⅱ	2
資格取得講座	
計	15